様式第６号11

学番　71	新潟県立高田商業高等学校

令和７年度　学校自己評価表（総括）

重点目標	分掌	具体的目標	具体的方策	評価		
１　授業改善をとおして指導力を向上させ、生徒の学ぶ意欲を育み、進路を実現出来る確かな学力の定着を図る。	教務部	1　教務が関わる式典、業務等を計画、実行してスムーズな学校運営を図る。	・学校運営会議、各分掌や各学年、教科との連携を密にする。	A		A
		2　業務分担の責任者を中心に複数で業務をこなすことにより、スピード化を図る。	・担当する係の業務内容を確認し、係内の連携をとりながら業務を行う。また、年度末に業務内容の総括をし、次年度への確実な引き継ぎと改善を図る。	A	A	
			・係ごとに、ファイルとデジタルデータを整理し、スムーズな引き継ぎができるように準備をしておく。	A		
		3　本に親しむ環境を整え、図書館の有効利用と読書活動を推進する。	・図書館活動を活性化し、貸し出し図書の増加を目指す。	A	A	
			・図書委員の自主的な活動を支援する。	A		
	国語科	1　豊かな語彙力を養う。	・定期的に漢字テストを行い、語彙力を身につけさせる。	A	A	A
			・表現、発表の機会を設け、意見交換させる。	A		
			・漢字検定の受験を奨励する。	A		
		2　小論文・作文を書く力を育成する。	・ワークブックや参考書を利用した小論文指導を行う。	A	A	
			・進路指導と連携し、必要に応じて補習を行う。	B		
			・授業で国語辞典を活用させ、日常生活でも調べる習慣を身に付けさせる。	A		
	地歴・公民科	1　公民科 人間としての在り方・生き方についての自覚を育て、民主的・平和的な国家・社会の形成者として必要な資質を養う。	・新聞・映像資料等を活用し、資料収集等を行い、多様な視点から現代社会を理解させる。	B	A	A
			・変化の激しい現代社会を対象とする時に、単なる知識だけでなく事象や課題について主体的に追求し、議論する資質を育成する。	A		
		2　地理歴史科 日本と世界の歴史的背景と地域的特色を理解させ、「国際社会に主体的に生きる」ために必要な資質を養う。	・歴史を学ぶ意義を理解させ、自ら進んで学ぶ態度を育成する。	A	A	
			・時事問題や資料など具体的な事例を取り入れ、生徒の興味・関心を引き出す授業の展開を図る。	A		
	数学科	1　数学に興味・関心を持たせ、学習意欲を高める。	・数学と日常生活との関連性に触れながら、生徒が数学を身近に感じ、意欲的に参加できる授業作りに努める。	A		B
		2　基本的な資質・能力・技術を高める。	・教科書、問題集、プリント等による根気強い反復練習により、基本的事項を身につけさせる。	A	B	
			・不得意な生徒については、個別指導や補習等によって理解できるように指導する。	B		
		3　論理的に考える力を育成し、創造性を培う。	・授業中の質問を通して生徒とのコミュニケーションを図り、自分の考えが述べられるようにする。	A	B	
			・問題解決にあたって、自己の解決方法を筋道を立てて明確に述べられるように指導する。	B		
	理科	1　自然科学に関する現象に関心や興味を持ち、意欲を持って学習に取り組めるようにする。	・生徒の視点に立ち、身近な科学的話題や興味がわく教材を利用しながら、授業を分かりやすく展開していく。	A		A
		2　自然現象から問題を見い出し、論理的に考え、分析的に考察をして問題解決能力を育む。	・実験等をとおして、結果から導き出される考察活動を繰り返し行い、問題解決の経験を積ませていく。	B	A	
			・思考力を問うワークシートを作成し、その評価と指導の一体化を図る。	A		
		3　観察や実験の技能が習得できるようにすることと、観察に必要な着眼を育成する。	・実験では生徒の実態に合わせ、「問題→実験→考察→結論」の流れに沿ったワークシートを作成し、考えやすいようにシートを工夫する。	B	A	
		4　自然現象についての基礎・基本的な知識を理解させ、定着を図る。	・比や割合など、理科を学ぶ上で基本的な数学的な重要事項についてのワークシートを作成する。授業のワークシートの中で基礎的な演習を行い、定期考査についての出題範囲とする。	A	A	
			・机間巡視を繰り返すことにより、グループ指導または個別的な指導を行う。	A		
	保健体育科	1　運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに、技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。	・各自が計画・立案する選択体育授業を通して、運動に関することがらをより能動的に学ばせる。	A	A	A
			・生徒各自の体力や運動能力を鑑み、随時アドバイスをし、運動を楽しく安全に行えるよう導く。	A		
		2　自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。	・各自の能力・体力・体調を把握させ、授業の中で体力の向上を図らせる。	A	A	
			・選択体育授業の責任者を交代で行わせることにより、様々な観点からの授業展開を考えさせる。	B		
		3　生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	・体育授業の実践や保健授業の講義を通して、生涯を通じ、自らの健康を適切に管理する能力を養う。	A	A	
			・体育授業の実践や保健授業の講義を通して、健康なライフスタイルを確立するための知識、またその手段としてのスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	A		

様式第６号11

学番　71	新潟県立高田商業高等学校

令和７年度　学校自己評価表（総括）

重点目標	分掌	具体的目標	具体的方策	評価		
１　授業改善をとおして指導力を向上させ、生徒の学ぶ意欲を育み、進路を実現出来る確かな学力の定着を図る。	英語科	１　基本的な音声の知識の習得と実践 ２　英語の基本的な構造やまとまった英文の内容を理解したり、自分の考えを発信することが出来る。	１年生 ・基本的な英語を音読できるよう指導する。	B	A	A
			・英語を実際に使用する場面を設定し、英語を使って積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。	A		
			・簡単な英語を使って、相手に自分の考えを伝える力の育成を図る。	A		
			・英語を読んだり聞いたりして、情報を正確にとらえたり相手の考えを理解する力を育成する。	B		
			２年生 ・英語を読んだり聞いたりして、情報を正確にとらえたり相手の考えを理解する力を育成する。	A	A	
			・英語を実際に使用する場面を設定し、英語を使って積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。	A		
			・英語を用いて自分や身近なことについて話したり書いたりする力を育成する。	A		
			３年生 ・英語を読んだり聞いたりして、情報を正確にとらえたり相手の考えを理解する力を育成する。	B	B	
			・英語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとする態度と、相手が伝えようとすることを理解する力を育成する。	A		
			・学習した構文や単語を用いて自分の考えを英語で伝える力を育成する。	B		
	家庭科	１　人の一生と家族・福祉、衣食住、などに関する基礎的、基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	・人の一生を保育・高齢者など生涯発達の視点で捉え、家族・家庭の意義、家庭と社会との関わりについて理解させ、男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性について考えさせる	B		A
			・消費経済・住居・調理・被服・保育・福祉実習を通して生活に関する知識・技術を身につけ、生活者として自立できるようにする。	A		
			・３年次の選択授業では家庭科技術検定を受験を通して技術の向上・定着を図る。	A		
	商業科	1　ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けさせる。	・マーケティング能力、コミュニケーション能力、会計活用能力、情報活用能力が養えるよう、それらに関する基礎、基本的な知識や技術を身に付けさせる。	A	A	A
			・基礎学力定着のための補充指導に力を入れる。	A		
			・各種検定（商経・簿記・情報）に積極的に取り組む。	A		
		2　経済社会の一員として、望ましい心構えを身に付けさせる。	・生徒が自らの在り方や生き方に応じて選択する教科・科目に配慮する。	A	A	
			・ビジネスを主体的、合理的に行うために求められている望ましい人間関係、社会性、倫理観などが養えるよう、豊かな創造性および企業経営に対する正しい考え方を身に付けさせる。	B		
		3　ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行なう能力を身に付けさせる。	・経営主体の活動目標を正しく理解し、その目標に合致して効果的に職務を遂行することが出来る生徒の育成を図る。	B	B	
			・自ら課題を発見し、主体的・対話的で深い学びを実現するため、より一層の授業改善に努める。	A		
		4　経済社会の発展に寄与する能力と態度を育てる。	・商品の環境性や安全性などを考え、広く経済社会の発展に寄与する能力と態度の育成を図る。	A		
	１学年	・　基礎的な学力の定着と学習意欲の向上	・各種検定試験、模擬試験等を通して、生徒自身が到達レベルを把握することで、学習への意欲を高められるよう指導する。	A		
	２学年	・　基礎学力の向上と各種検定試験取得の推進	・各種検定試験、模擬試験等を通して、進路実現を意識した授業への取り組みができるよう、また個別学習を通して学習意欲を高められるように指導する。	A		
	３学年	・　豊かな人間性の育成と、充実した高校生活になるよう努力させる。	・望ましい学習態度の確立を図り、自己実現に向け努力させる。	A		

様式第６号11

学番　71	新潟県立高田商業高等学校

令和７年度　学校自己評価表（総括）

重点目標	分掌	具体的目標	具体的方策	評価		
２　自己肯定感を高め、良好な人間関係を構築するための教育活動を充実させる。	生徒指導部	1　生徒の基本的生活習慣の確立を図る。	・定期的に頭髪服装検査（登校指導を含む）を実施する。	A	A	A
			・学校生活調査を実施し、いじめの防止を図る。	A		
		2　社会的規範を遵守する意識を高める。	・バイク、自転車の交通安全運動を実施する。	A	A	
			・メール被害、薬物乱用防止指導を行う。	A		
		1　生徒一人一人の自主性を伸長し、積極的に問題解決のできる力を育成する。	・生徒自身が企画し、運営する生徒会づくりを心がける。	A		A
		2　集団活動を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。	・学級委員との連絡を密にするなど、学級と生徒会の連携を図る。	B		
		3　生徒同士が互いに触れ合い、力をあわせて行動する場を設定することにより、協調性や思いやりの心を育む。	・行事の活性化を目指す。	A	A	
			・学校行事に関わる年間計画を立て、計画性のある運営を心がける。	A		
	１学年	1　基本的生活習慣の確立	・授業中心の学校生活が送れるよう指導する。	B		
	２学年	1　基本的生活習慣の確立	・学校行事等を通じて円滑な人間関係を築き、授業を中心とした有意義な学校生活が送れるよう指導する。	A		
	３学年	1　最高学年としての自覚を持った責任ある行動をとらせる。	・学校のリーダーとしての自覚を持たせ、部活動、学校行事だけでなく、普段の生活の中で有意義な学校生活を送らせる。	A		
	商業科	1　社会人としての基本的なコミュニケーション能力や態度を身につけさせる。	・職業観、勤労観の育成を図るとともに、ビジネスに対する望ましい心構えや理念の育成を図る。	A		A
			・ビジネスの諸活動におけるコミュニケーション能力の育成を図る。	A		
			・経済社会の変化に柔軟に対応できる生きる力の育成を図る。	B		
	いじめ等防止委員会	1　いじめのない学校づくりに向けて、学校をあげて取り組む。	・いじめ等防止委員会を月１回以上開催し、生徒の状況について情報共有を図る。	A		A
			・いじめアンケートを各学期１回以上実施し、いじめの認知、早期発見に努める。	A		
			・職員対象の校内研修会等を各学期１回以上実施し、いじめの対応について組織で対応できるよう研修する。	A		
	特別支援教育委員会	1　特別な支援を必要とする生徒の情報を全職員で共有し、具体的な（精神的、物理的）支援を行い、有意義な高校生活ができるようサポートする。	・特別支援教育委員会を月１回以上開催し、生徒の状況について情報交換を行い、その結果を全職員で共有する。	A		A
			・いじめ等防止委員会と連携し、職員会議で「生徒の様子」として情報共有する。	A		
			・職員研修会等を年１回以上開催し、具体的な個別支援計画が作成できるよう研修っするとともに、実際に生徒を組織的にサポートしていく。	A		
			・特に不登校の生徒に対し、様々な支援を検討・実施し、高校生活が続けられるよう働きかける。	B		
３　将来への目的意識を高めるために、３年間を見通した進路指導を充実させる。	進路指導部	1　自己理解を深化させるとともに、正しい勤労観・職業観を確立させる。	・適切な進路情報を収集、提供する。進路だよりを定期的に発行する。	B		A
			・進路ガイダンスや進路講演会等を実施する。	A		
			・各学年と連携し、企業・学校見学、進路学習、応募前職場見学等を実施する。	A		
		2　進路目標に向けた基礎的能力を養成する。	・進路指導部から情報提供を行い、ＨＲにおける進路指導を充実させる。また、進路指導部による進路相談を充実させる。	A		A
			・面接指導や小論文指導、進学補習、各種模擬試験を計画通り実施する。	A		
	１学年	・　進路指導の早期働きかけ。	・総合的な探究の時間を通して、具体的な進路が考えられるよう指導する。	A		
	２学年	・　主体的に進路を選択する力の育成。	・適切な進路情報の提供、総合的な探究の時間の活用、進路説明会等の経験を通じて、進路について具体的に考えさせる。	A		
	３学年	・　豊かな人間性の育成を図るとともに、進路実現に向けて努力させる。	・進路を切り開くことのできる、意欲と態度を育成する。	A		A
			・保護者や進路指導部との連携を密にしながら、個々に応じた進路指導を行う。	A		

様式第６号11

学番　71	新潟県立高田商業高等学校

令和７年度　学校自己評価表（総括）

重点目標	分掌	具体的目標	具体的方策	評価		
４　特色ある教育活動を積極的に発信する。	教務部	1　学校ＨＰを活用し、充実した情報発信を行う。	・学校行事や生徒の様子、緊急対応について適宜、Ｗｅｂ発信をする。	B		A
		2　生徒および保護者へ分かりやすい情報提供を行うと共に、中学校に対して魅力的な広報活動を行う。	・「中学生体験入学」「学校説明会」等を通じ、中学校への広報活動に取り組む。	A		
		3　家庭・地域との連携の充実を図る。	・ＰＴＡ総会及びＰＴＡ各委員会の参加者拡充に取り組む。	A	A	
			・保護者アンケートや「学校評議員会」「地域の声を聴く会」において意見を集約し、より良い学校運営に努める。	A		
	進路指導部	1　保護者に対し、有効な進路情報を提供する。	・「進路だより」を定期的に発行する。	A		
	１学年		・定期的な「学年便り」の発行	A		
	２学年		・定期的な「学年便り」の発行	A		
	３学年		・定期的な「学年便り」の発行	B		
	商業クラブ	チャレンジショップ「Rikka」の更なる発展を図る。	・８月にチャレンジショップの開設、また、地域イベントへ参加する。	A		A
			・上越地域の魅力を発信する活動を行う。	A		